

# 四季の室礼

## 《冬 至》

室礼（しつらい）は季節や人生の節目に感謝、もてなし、祈願などの心を添えてしつらいます。室礼を知って頂くことで、より豊かに生活を楽しんで頂けると幸いです。

参考 生活文化 室礼三千



12 個のお餅には、稲や作物の実りへの感謝を込め、一年を振り返り、新たな年の運を願います。



大きな「鬼柚子」は邪気を祓うとされ、実が大きいことから「実入りが良い」と縁起を担ぎ、商売繁盛を願って飾りました。

正月には「獅子柚子」と呼び名が変わり、正月飾りとしても重宝されます。



季節の野菜や果物など、行事にまつわる食べ物を供え、その後食することを直会（なおらい）と言います。魔除けの小豆と南瓜と一緒に頂く「いところ煮」もおすすりめです。

### 再生を促す湯と食べ物

冬至を境に翌日から少しずつ日が長くなることから、この日に「一陽来復」を祝います。冬至は陰と陽の境目にあたり、悪いことが有っても必ず陽に戻ると考えます。

冬至には柚子湯に入り、かぼちやを食べると風邪をひかないと言われます。冬至に「ん」のつくものを食べると「運」がつくと  
言い伝えがあり、きんかん、ぎんなん、にんじん、れんこん、  
こんにやく、うどんなどが食べられました。

柚子は、強い香りが邪気を祓うと伝えられてきました。柚子湯に入ること  
は心身を清め無病息災を願います。

（参考 日本のだしなみ帖）